

○整備上の留意点 大型トラック TPMS センサ付きタイヤのタイヤ脱着作業要領について

TPMSセンサ付きタイヤの脱着作業時に、TPMSセンサを損傷／破損させる恐れがありますので、作業要領をご連絡いたします。

作業要領を遵守せずTPMSセンサが損傷／破損すると、メーターのタイヤ空気圧表示が消えたりするおそれがあります。

【対象車両】

TPMS付き大型トラック（17年モデル～）

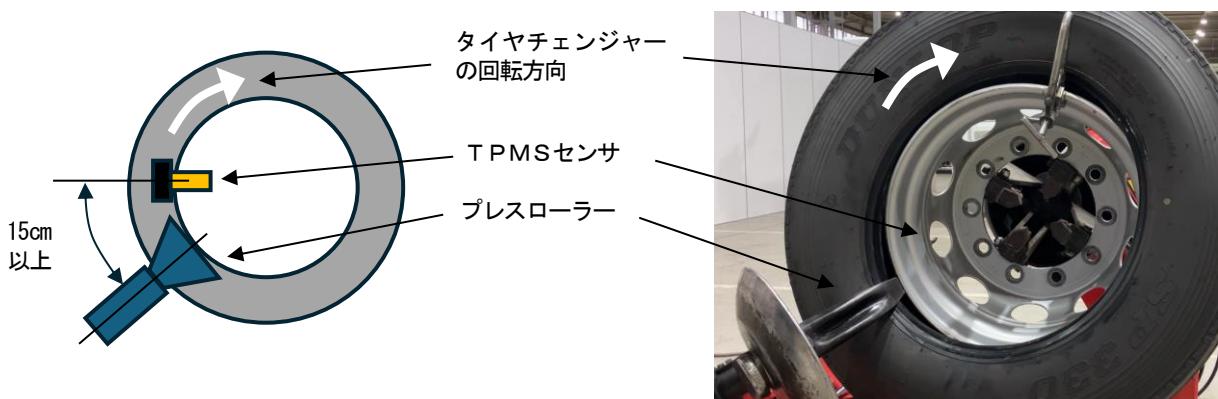
【タイヤ取り外し時の作業要領】

- ① タイヤの空気を抜いてから、タイヤバルブのナットを取り外す。
- ② タイヤバルブをタイヤ内へ落とす。（TPMSセンサは付いたまま）
- ③ タイヤを取り外し、タイヤ内のTPMSセンサとタイヤバルブを回収する。
- ④ タイヤバルブからTPMSセンサを取り外す。



【タイヤ組付け時の作業要領】

- ① ホイールにタイヤバルブを組み付ける。（ナットの締付けトルク： $12\pm1\text{Nm}$ ）
- ② タイヤバルブにTPMSセンサを組み付ける。（取付けスクリューの締付けトルクは表1参照）
この時、TPMSセンサをホイールに押し付けながら組み付ける。（押し付け位置は表1参照）
- ③ タイヤを組み付ける。
この時、タイヤチェンジャーのプレスローラーが、TPMSセンサを通過しないようにしてください。
(下図参照)



【TPMSセンサの種類】

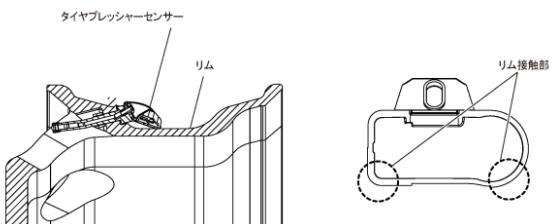
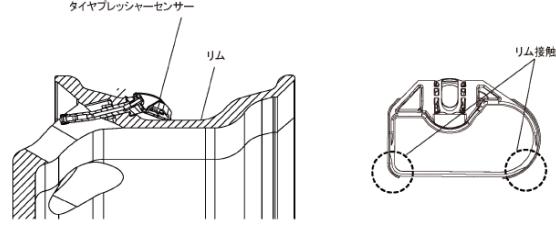
TPMSセンサは年式違いで2種類（17～23年式、24年式）あります。

TPMSセンサ及びスクリューの形状は、年式違いで異なるためTPMSセンサとスクリューは必ず、下図の組合せで使用してください。



年式毎のセンサ取付けスクリューの締付けトルクについては、表1を参照してください。

表1 TPMSセンサのスクリュー締付けトルク、押し付け位置

センサ種類	スクリューの締付けトルク	ホイールへの押し付け位置
17～23年式 (Gen1)	$4 \pm 0.5 \text{Nm}$	
24年式 (Gen2)	$5 \pm 0.5 \text{Nm}$	

【参考】

- TPMSセンサ付きタイヤの見分け方は、タイヤバルブの先端付近にO-Ringがあれば、TPMSセンサ付きタイヤです。（下の写真はスチールホイールのTPMSセンサ用タイヤバルブです。）



- TPMSセンサには空気圧感知用の穴があいており、穴が塞がると故障の原因となるおそれがあります。そのため、TPMSセンサにワックスが直接付かない様にしてください。

